



渡良瀬遊水地ラムサール条約登録

# 10周年記念 シンポジウム

日時 令和4年7月3日(日)  
13:00~17:30(開場12:00)  
会場 小山市立文化センター  
大ホール 小山市中央町1丁目1番1号

今年の7月3日に、渡良瀬遊水地がラムサール条約に登録されてちょうど10年がたちます。  
コウノトリをはじめとした貴重な生きものがたくさん棲んでいる豊かな自然環境を、皆で利用しながら将来に引き継いでいくために、何ができるのかを考えてみませんか？

## 第1部

### 活動報告 & パネルディスカッション

主催：渡良瀬遊水地保全・利活用協議会

13:00 開会

#### ①活動報告

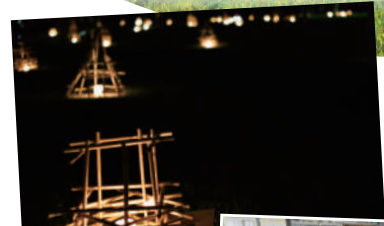
～ラムサール条約登録10年後の歩み、そして未来へ～

発表者 (NPO) わたらせ未来基金 理事長 青木章彦さん

#### ②パネルディスカッション

テーマ：ラムサール条約湿地におけるエコツーリズム

15:20 「渡良瀬遊水地宣言」発表



## 第2部

### 田っぷり学ぶ！ わたらせコウノトリスクール2022

担任(司会)：鈴木陽子先生

(おやまコミュニティFMおーラジ パーソナリティ)

生徒：地元の子どもたち

主催：小山市

共催：古河市、栃木市、野木町、板倉町、加須市

渡良瀬遊水地保全・利活用協議会

15:40 ホームルーム

1時間目 社会 「コウノトリが帰ってくるまで」

佐竹節夫さん (日本コウノトリの会 代表)

森 薫さん (日本コウノトリの会 事務局長)

2時間目 道徳 マナー観察ボランティア 発足

3時間目 情報 わたらせコウノトリファンクラブ 始動

4時間目 総合学習 「コウノトリへの想い」

閉校



問い合わせ

小山市役所 総合政策部 自然共生課  
TEL 0285-22-9354

参加費  
無料



お申し込み・  
お問い合わせは  
こちらから

渡良瀬遊水地ラムサール条約登録  
10周年記念シンポジウム（案）

1. 目的

令和4（2022）年7月に、渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録されて10周年を迎える。

これを記念し、渡良瀬遊水地のラムサール条約登録後10年間の歩みを振り返るとともに、ラムサール条約の理念である、私達の生活を支える重要な生態系としての湿地の「保全・再生」、湿地の生態系を維持しつつ、そこから得られる恵みを持続的に活用する「賢明な利用」、湿地保全や賢明な利用のために対話・能力構築・教育・参加・啓発活動を進める「CEPA」の促進により、渡良瀬遊水地の豊かな自然環境を守り、将来へつないでいく事を目的に、「ラムサール条約湿地の未来」をテーマとしてシンポジウムを開催する。

2. 開催日時

令和4（2022）年7月3日（日）

- ・開 場 12：00
- ・開催時間 13：00～17：45

3. 会 場

小山市立文化センター 大ホール

（〒323-0023 小山市中央町1丁目1番1号 TEL：0285-22-9552）

4. タイムスケジュール ※時間は目安です。

12:00 開場・受付開始

**【第1部 主催：渡良瀬遊水地保全・利活用協議会】**

司会：鈴木 陽子 氏（おやまコミュニティFM「おーラジ」パーソナリティ）

13:00 開 会 主催者挨拶・来賓挨拶

わたらせシールラリー認定証・記念カード贈呈式  
（当日は該当者全員招待するが、認定者多数の場合は、  
代表1名に贈呈を受けていただく）

13:20 ① 活動報告

～ラムサール条約湿地登録10年後の歩み、そして未来へ～  
発表者（NPO）わたらせ未来基金 理事長  
青木 章彦 様

13:40 休憩（10分）

13:50 ② パネルディスカッション

テーマ：（仮）

ラムサール条約湿地におけるエコツーリズム

◆パネリスト

日光市長

古河市・栃木市・小山市・野木町・板倉町・加須市  
の各首長（代理の場合あり）

環境省自然環境局 野生生物課長

利根川上流河川事務所長

◆コーディネーター

（NPO）わたらせ未来基金 理事長 青木 章彦 様

15:20 「渡良瀬遊水地宣言」発表

◆発表者 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会 浅野 正富 会長

15:30 休憩（10分）

【第2部 主催：小山市

共催：栃木市、古河市、加須市、野木町、板倉町、保全・利活用協議会】

「田っぴり学ぶ！わたらせ コウノトリ スクール2022」

担任（司会）：鈴木 陽子 先生（おーラジ パーソナリティ）

15：40 オープニング、柳生さん動画放映

16：00 故・柳生博氏への感謝状贈呈

16：05 1時間目 社会 「コウノトリが帰ってくるまで」

佐竹 節夫 氏（日本コウノトリの会 代表）

森 薫 氏（日本コウノトリの会 事務局長）

16：35 2時間目 道徳 マナー観察ボランティア 発足

平田 政吉 先生（渡良瀬遊水地見守り隊）

16：45 【休憩】

16：55 3時間目 情報 わたらせコウノトリファンクラブ 始動

Sakutto OYAMA（小山市プロモーションチーム） 3名

17：05 4時間目 総合学習 「コウノトリへの思い」

下生井小（小山市）、藤岡小（栃木市）、野木小（野木町）、

佐竹 節夫 氏、森 薫 氏

17：35 閉校・グランドフィナーレ（記念撮影など）

17：45 終了

## 5. 参加定員

- 200 名程度

※来賓・登壇関係者・協議会構成員等を除く一般参加者の定員。

## 6. 参加方法

- 参加費無料
- 当日参加可
- 感染症対策（当日受付の混雑緩和）のため、事前申込受付を実施。

※6月1日(水)から小山市HP（かんたん申請システム）及び電話受付を開始。

## 7. 事務局

小山市 総合政策部 自然共生課

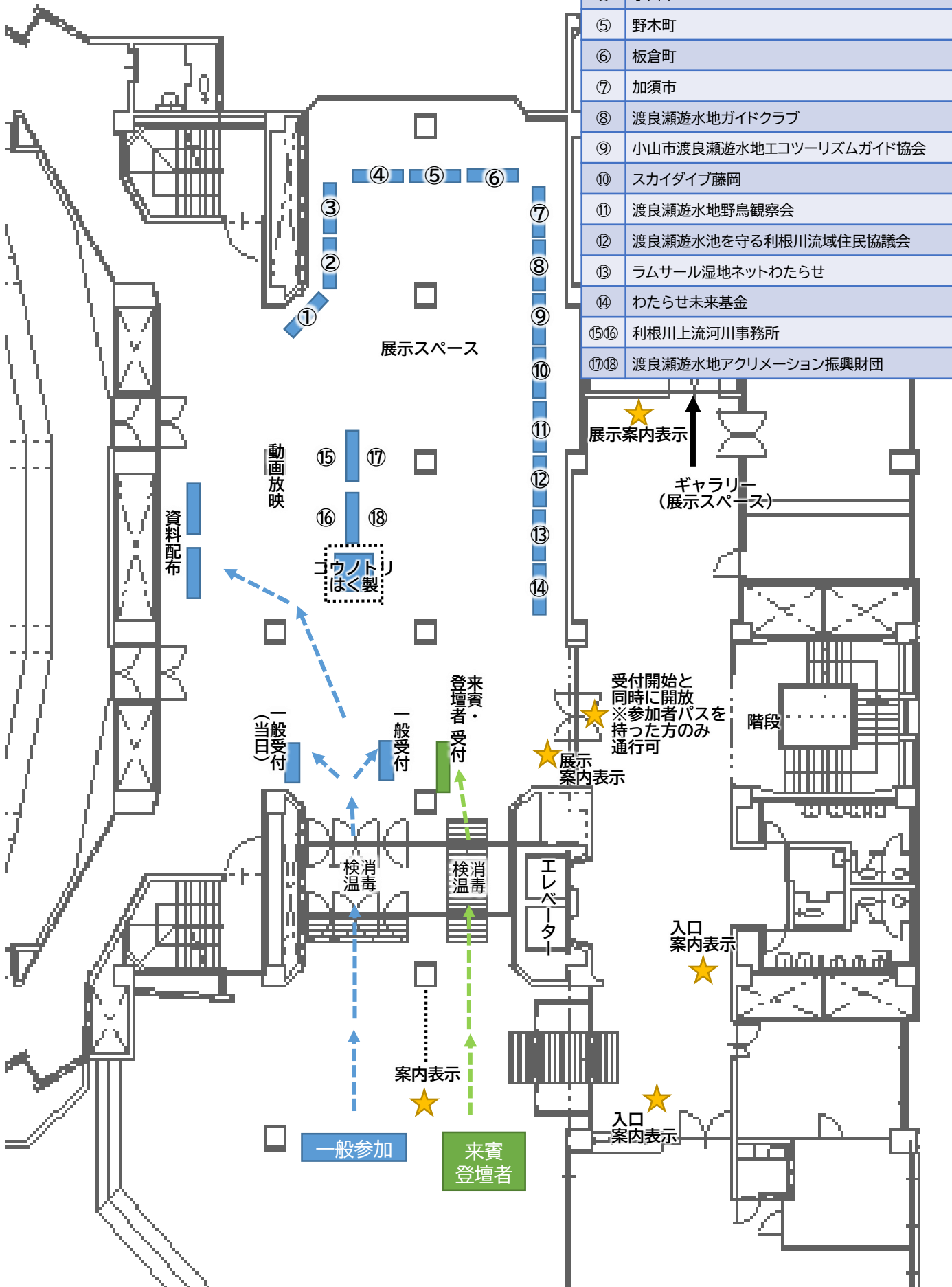
（〒323-8686 栃木県小山市中央町 1-1-1 小山市役所 6 階）

TEL：0285-22-9354 FAX：0285-22-9546

E-mail：d-shizen@city.oyama.tochigi.jp

※ 本シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症の状況により、開催形態を変更する可能性があります。その際は、事務局（小山市）HP 等で適宜お知らせいたします。

# 会場ロビー内配置図（案）



- |    |                            |
|----|----------------------------|
| ①  | 渡良瀬遊水地第2調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会 |
| ②  | 古河市                        |
| ③  | 栃木市                        |
| ④  | 小山市                        |
| ⑤  | 野木町                        |
| ⑥  | 板倉町                        |
| ⑦  | 加須市                        |
| ⑧  | 渡良瀬遊水地ガイドクラブ               |
| ⑨  | 小山市渡良瀬遊水地エコツーリズムガイド協会      |
| ⑩  | スカイダイブ藤岡                   |
| ⑪  | 渡良瀬遊水地野鳥観察会                |
| ⑫  | 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会        |
| ⑬  | ラムサール湿地ネットわたらせ             |
| ⑭  | わたらせ未来基金                   |
| ⑮⑯ | 利根川上流河川事務所                 |
| ⑰⑱ | 渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団         |

★ 展示案内表示

★ 受付開始と同時に開放  
※参加者パスを持った方のみ通行可

★ 展示案内表示

★ 入口案内表示

★ 入口案内表示

階段

ギャラリー (展示スペース)

一般参加

来賓登壇者

一般受付 (当日)

一般受付

来賓・登壇者受付

検温消毒

検温消毒

エレベーター

動画放映

資料配布

カウンタートップ

展示スペース

渡良瀬遊水地ラムサール条約登録  
10周年記念シンポジウム 収入・支出予算（案）

1. 収入

（単位：円）

区分	金額	備考
保全・利活用協議会	400,000	協議会予算
計	400,000	

2. 支出

（単位：円）

区分	金額	備考
報償費	65,000	謝金（出演者、司会者ほか）、旅費
需用費	310,000	ステージ看板製作、チラシデザイン制作、記念カード等印刷費、その他消耗品購入・レンタル費
役務費	25,000	会場警備
計	400,000	

渡良瀬遊水地ラムサール条約登録10周年記念シンポジウム 登壇者名簿

※敬称略

プログラム	役割	団体	役職	氏名
全体	司会	おやまコミュニティFM「おーラジ」	パーソナリティ	鈴木 陽子
開会	主催挨拶	渡良瀬遊水地保全・利活用協議会	会長	浅野 正富
	来賓挨拶	環境省 自然環境局	局長	奥田 直久
第1部	シールラリー認定者	一般の方		松井 みどり
	シールラリー認定者	一般の方		入野 彩加
	シールラリー認定者	一般の方		峯崎 晴美
	シールラリー認定者	一般の方		津野田 明
	シールラリー認定者	一般の方		大塚 正信
	活動報告・コーディネーター	特定非営利活動法人わたらせ未来基金	理事長	青木 章彦
	パネルディスカッション	日光市	市長	粉川 昭一
	パネルディスカッション	古河市	市長	針谷 力
	パネルディスカッション	栃木市	市長	大川 秀子
	パネルディスカッション	小山市	市長	浅野 正富
	パネルディスカッション	野木町	市長	真瀬 宏子
	パネルディスカッション	板倉町	市長	栗原 実
	パネルディスカッション	加須市	副市長	調整中
	パネルディスカッション	環境省 自然環境局 野生生物課	課長	則久 雅司
	パネルディスカッション	国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所	所長	安達 孝実
	渡良瀬遊水地宣言	渡良瀬遊水地保全・利活用協議会	会長	浅野 正富
第2部	感謝状受贈	公益財団法人日本野鳥の会	理事長	遠藤 孝一
	感謝状贈呈・コウノトリスクール	小山市	市長	浅野 正富
	コウノトリスクール	下生井小学校	児童	3名
	コウノトリスクール	藤岡小学校	児童	3名程度
	コウノトリスクール	野木小学校	児童	2名程度
	コウノトリスクール	日本コウノトリの会	代表	佐竹 節夫
	コウノトリスクール	日本コウノトリの会	事務局長	森 薫
	コウノトリスクール	渡良瀬遊水地見守り隊	代表	平田 政吉
	コウノトリスクール	Sakutto OYAMA	メンバー	井上 まき
	コウノトリスクール	Sakutto OYAMA	メンバー	大内 晃子
	コウノトリスクール	Sakutto OYAMA	メンバー	浦崎 奈々



渡良瀬遊水地ラムサール条約登録10周年記念シンポジウム 来賓名簿

※敬称略

No.	分野	団体	役職	氏名	出欠
1	関係省庁	環境省 自然環境局	局長	奥田 直久	○
2	関係省庁	国土交通省 関東地方整備局 河川部	部長	塩井 直彦	○
3	関係省庁	農林水産省 関東農政局 栃木南部農業水利事業所	所長	廣川 一郎	○
4	関係市町議会	古河市議会	議長	鈴木 隆	○
5	関係市町議会	栃木市議会	議長	中島 克訓	○
6	関係市町議会	小山市議会	議長	福田 洋一	○
7	関係市町議会	野木町議会	議長	針谷 武夫	×
8	関係市町議会	板倉町議会	議長	今村 好市	○代理
9	関係市町議会	加須市議会	議長	新井 好一	
10	渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ ネットワーク 推進協議会 委員	群馬大学大学院 理工学府 教授	教授	清水 義彦	
11		(一財)環境文化創造研究所	主席研究員	蘇 雲山	○
12		東邦大学 理学部	教授	長谷川 雅美	○代理
13		北里大学 獣医学部	教授	森 淳	
14	渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ ネットワーク 推進協議会	認定NPO法人 バードリサーチ	運営委員	平野 敏明	
15		結城市	市長	小林 栄	○
16		五霞町	市長	染谷 森雄	×
17	渡良瀬遊水地エリア 検討部会 会員	境町	市長	橋本 正裕	
18		久喜市	市長	梅田 修一	×
19	コウノトリ飼育施設	野田市	市長	鈴木 有	○代理
20	コウノトリ飼育施設	鴻巣市	市長	原口 和久	○代理
21	コウノトリ飼育施設	埼玉こども動物自然公園	園長	田中 理恵子	
22	コウノトリ飼育施設	多摩動物公園	園長	渡部 浩文	○
23	柳生博氏関係	(公財)日本野鳥の会	理事長	遠藤 孝一	○
24	柳生博氏関係	(公財)日本野鳥の会 栃木県支部	支部長	内田 裕之	○

## ラムサール条約登録 10 周年記念シンポジウム パネルディスカッション企画案

渡良瀬遊水地では、2012 年のラムサール条約登録以前から、多様な関係者の努力により豊かな湿地環境が保たれ、条約登録をきっかけとして、その理念に基づき渡良瀬遊水地の「保全と再生」、「賢明な利用」、「CEPA（参加交流・普及啓発）」をさらに推進してきた。

その結果、渡良瀬遊水地では多数の利用者がサイクリングやバードウォッチング、その他屋外アクティビティを楽しむ一方で、多数の貴重な動植物が生息・生育し、2020 年にはコウノトリの野外繁殖が実現している。

こうした渡良瀬遊水地の良好な湿地環境を将来にわたって支えていくには、ヨシ焼きや外来種対策など、人の手をかけ続けていく「里山的管理」が重要であるが、現代社会にコロナ禍も相まって、人と自然、人と人の関係が希薄となりつつあるなど、その継続に課題が見えている状況である。

本パネルディスカッションでは、こうした関係を結びなおすきっかけとなりうる「エコツーリズム」をテーマとして、近隣の条約湿地である奥日光湿原の取組を交えながら、改めて湿地の持つ魅力を再確認し、条約の理念の好循環を生むヒントを探ることを目的とする。

### <登壇者>

コーディネーター：NPO 法人わたらせ未来基金 青木 章彦 氏（活動報告(基調講演)者）

パネリスト：環境省自然環境局野生生物課長（ラムサール条約所管省）  
国土交通省利根川上流河川事務所長（渡良瀬遊水地管理者）  
茨城県古河市長、栃木県栃木市長、小山市長、野木町長、  
群馬県板倉町長、埼玉県加須市副市長（渡良瀬遊水地関係市町首長）  
栃木県日光市長（ラムサール条約湿地・奥日光湿原関係首長）

### <大まかな流れ>

- ・【前提】渡良瀬遊水地における湿地環境について、これまでの活動や現状については、前段の活動報告（講演）で青木氏が語っている。
- ・条約登録以降、自然環境の面から見ると良くなった点も多く見られるが、その一方で課題も多く見受けられる。
- ・これからも良好な湿地環境を保つには、多くの人の手を入れることが重要。
- ・しかしながら、地元の中でも地域間で意識差があり、市民一人ひとりにとって「自分の大切な場所である」という認識が低い。利用者の方々も、レクリエーションとしての活動と湿地保全としての活動が全くの別物であると認識している方がほとんどではないか。
- ・条約には3つの理念が掲げられているが、この10年間の活動を振り返ってみると、それぞれの理念が互いに影響し合っていることに気づく。どんな活動も、一つの理念に収まるようなものではない。
- ・これからは渡良瀬遊水地を利用しながら支える、利用していく中で利用者どうしがつながるような取組が大事。大きな視点では、湿地と湿地がつながる、人と人が湿地でつながる関係性を構築していきたい。